

授業科目名	国文学 (2100255)		
時間割名	国文学 (25107)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・5		

### 授業の目標・概要

三年生前期に引き続き、国語に対する応用力・実践力より発展させることを主な目的とする。講義は、主に、鎌倉時代後期の伏見院の和歌を手掛かりとして、国文学と漢文学の影響関係について取り上げる。和歌の歌ことばにおける漢文学受容を概観する。

### 学習の到達目標

- ・国文学における漢文学の影響関係についての知識を深める
- ・日本文学および文化の特徴とその意義を理解する
- ・中学高等学校の教育現場での活用方法を習得する

### 授業方法・形式

1. それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
2. 必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス 和歌的な世界と漢詩的な世界  
和歌的な世界と漢詩的な世界の違いについて概説する。
- 第2回 春の歌ことば 「霞」  
「霞」という歌ことばの漢詩からの影響史について論じる。
- 第3回 「ながめ」 春の愁い  
春の愁いの和歌表現と漢詩の関係について論じる。
- 第4回 花の表現 「桜」と「梅」  
日本文化の、漢詩的世界と和歌の世界の融合した美的感覚について論じる。
- 第5回 夏の歌ことば 「納涼」「蓮」「池」「泉」  
夏の主題における和歌と漢詩の違いについて論じる。
- 第6回 秋の歌ことば 「悲秋」「蟋蟀」  
和歌と漢詩の捉え方、感覚の差異と、漢詩からの影響による和歌表現の変容について論じる。
- 第7回 秋の夜 『白氏文集』の表現  
白居易の『白氏文集』の表現受容と、秋夜の「燈」「雨」の表現の変遷について論じる。
- 第8回 秋の景物 「蘭」「雁」「きぬた」  
漢詩文の故事、本説をもつ歌語について取り上げる。
- 第9回 月の表現 和歌と漢詩の違い、受容と変容の問題について論じる。
- 第10回 晩秋・冬の始まり 「桐」の枯葉、「時雨」 漢詩と物語と和歌の表現の影響関係について論じる。
- 第11回 雪の表現 古来からの雪の美の表現と漢詩との関わりについて論じる。
- 第12回 炊事の煙の表現 和歌と禅宗文化との関わりを中心に論じる。
- 第13回 建築 「壁」「窓」 漢詩文から歌材を撰取することの意味を考える。
- 第14回 身近な動物 「犬」「鴉」 漢詩、和歌、俳諧の性格について考える。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

### 成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと課題レポートを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく。(50%)さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する。(50%)

### 授業時間外の課題

1. テキストや参考書、授業中に配布したプリントを読み、十分に理解すること。ノートに要点を書きだしてまとめるとわかりやすい。
2. 不明確な点は漢字や古語の辞典で調べたり、ウェブサイトなども利用して解決すること。

### メッセージ

### 教材・教科書

テキスト：阿尾あすか著『コレクション日本歌人選 伏見院』（笠間書院）、大谷雅夫著『歌と詩のあいだ 和漢比較文学論考』（岩波書店）

### 参考書

参考書：高等学校国語便覧など